

高崎経済大学地域科学研究所 ニュースレター No.17

目次	所長挨拶	(1)
	事業報告① 第15回公開講演会	(1)
	事業報告② 第11回地元学講座	(3)
	事業報告③ 第12回地元学講座	(7)
	事業報告④ 第11回地域めぐり	(7)
	研究プロジェクト研究報告	(7)
	地域科学研究所動静	(19)
	編集後記	(19)

所長挨拶

所長 高松 正毅

令和3年度の地域科学研究所事業のうち,市民ゼミと公開講座(ニュースレターNo.16 参照),公開講演会,地域経営セミナー,また地元学講座・地域めぐりについては,形を変えながらも,なんとか終わることができました。

今年度は,高崎市中央公民館で行う連携公開講座が中止のやむなきに至ったほか,地元学講座・地域めぐりの実施時期が遅くなってしまいました。コロナ禍が続くなか適切な決断が遅れ,躊躇逡巡しているうちにスケジュールリングが滞ってすべてが遅れる結果となりました。

市民・県民のみなさまには,ここに心よりお詫び申し上げますとともに,早め早めのスケジュール調整とともに再発の防止に努めてまいります。

なお,3月に地元学講座と地域めぐりが行われました。これは,高崎市を中心に,高崎にまつわる広範なことどもの歴史および現状,さらには未来について学ぶものです。オンキャンパススタディー(レクチャー)として「地元学講座」があり,オフキャンパススタディー(エクスカージョン)として「地域めぐり」があります。

本ニュースレターには,その概要を記しました。ぜひご一読ください。

市民・県民のみなさまには,地域科学研究所を生涯学習・リカレント教育の場としますますご活用いただきますとともに,地域科学研究所事業へのより一層のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

* * *

事業報告① 第15回公開講演会

第15回公開講演会は,株式会社キンセイ産業代表取締役社長・金子正元氏をお招きし,「地方製造企業の底力ー『夢をかたちに,声を技術に』55年」と題して行われました(2021年12月8日,本学151教室)。金子社長と言えば,今や群馬の経済界ではレジェンドのような存在です。学生のみならず,教職員,市民,金融関係者など,数多くの聴衆が社長のお話に耳を傾けました。

キンセイ産業は,1967(昭和42)年の創業以来,高崎の地で燃焼技術を磨き上げてきました。規模だけを見れば,従業員80名の中小企業ですが,「乾溜ガス化焼却装置」をはじめ,日本のみならず,台湾,アメリカなどで数々の特許を取得しています。焼却プラントメーカーとして他の追随を許さない地歩を築き,今年(2022年)で創業55周年となります。高崎からオンリーワンの技術を発信する,その先頭に立ってきたのが,金子社長です。

一言で55年と言いますが,けっして順風満帆で

はなく、それどころか苦難の連続でした。創業当初は、特殊電気工事、電気製品取扱を本業としていたものの、それだけでは食えず、依頼された仕事は何でも（看板の作成から、側溝に落ちた自動車の引き揚げから、何でも！）引き受けていたそうです。きちんとした仕事の評価され、依頼は絶えなかったものの、ある時、「万屋（よろずや）」ではいけないと一念発起し、焼却装置製造事業に専心するようになりました。

それから、資金繰りだけではなく、入院を余儀なくされるほどの爆発事故に遭遇するなど、苦労は止まず、55年は、文字通りの「命がけ」、大変な道りでした。講演では、そんな苦境をどう乗り越えてきたか、そこから何を学んだのか、金子社長に熱く語っていただきました。これから社会に巣立つ本学学生にとっても、社長の教えは大いに示唆に富むものだったと思います。

金子社長は「目標と志が全てを決める」と話されました。目標と志を定めたら、厳しいなかでも「プラス思考」で楽しむこと、勝利を目指して、言い訳をせず「自分で風を起こす」こと、「ピンチをチャンスに、チャンスを最大限に生かす」、そのために「ケタ外れの努力」を惜しまないこと、「感謝の気持ち」を忘れないこと、そしてそのすべてのために「健康であるべきこと」を説かれました。

お話のすべてが並大抵ではない努力と経験に基づくものであり、非常に説得的でした。キンセイ産業を高崎発の世界に冠たる企業にまで押し上げた経営計画、確固たる知財戦略（取得特許は50以上に上ります）の裏には「目標と志が全てを決める」という強い信念があったのです。浮世離れした私のような大学教員にも、響く内容でした。

キンセイ産業は、オイルショック、リーマンショックなどの大不況を乗り越え、磨き上げた技術をひっさげて海外展開を本格化しています。展示会への参加、海外企業とのライセンス契約の推進はもちろん、JICA（国際協力機構）やUNIDO（国連工業開発機関）とも協力しながら、タイ・チェンマイやケニア

・ナイロビといった新興国の病院にまで自社の燃焼装置を納めています。昨年10月には、市内宮原町の日本たばこ産業高崎工場跡地に新社屋・工場を建設しました。

国連のSDGs（持続可能な開発目標）実現に向け、環境技術への注目はますます高まっています。キンセイ産業は、これからもグローバル社会に貢献し、地域の雇用と経済を支えていくことでしょう。

世の中では、「新しい資本主義」どころか、「新自由主義」そのままのマッチョな勢力が「生産性向上」を声高に叫んでいます。またぞろ「中小企業低生産性論」「中小企業淘汰論」が蔓延っています。生産性の向上が不要であるとは言いません。しかしながら、あの日、あのとき、紙切れに書かれた財務状況と狭小工場だけを判断材料に、どの金融機関も相手にしていなかったなら、今のキンセイ産業はありません。

本学では、金融業界で働く卒業生が数多くいます。軽佻浮薄な世の大勢に流されることなく、経営者の目に宿るエネルギーと信念を見誤らないようにしなければいけませんね。「目利き力」を養うための第一歩。そんな開放講演会でありました。

矢野修一（経済学部教授）



<第15回公開講演会 金子 正元 先生>

事業報告② 第11回地元学講座報告

開催日：令和4年3月5日

テーマ：「高崎の市街地拡大と双子都市発展」

講師：戸所 隆 氏（高崎経済大学名誉教授・事業創造大学院大学特任教授）

はじめに、双子都市とは「類似した機能・性格の2都市が近接した地域でそれぞれ核心を持ちながら一体的に発展する都市」という定義から入りました。なお、もちろんここでの双子都市とは、それぞれ独自の都市核・都市機能・後背地をもつ高崎市と前橋市です。

次に、高崎市街地の拡大と変化の過程を地形図から確認し、市街地の拡大と双子都市としての成長を見ます。加えて、双子都市、高崎と前橋の基本指標と類似性を確認し、高崎・前橋の形成要因を検討します。さらに、高崎・前橋の歴史的な性格と都市的な発達過程の特性を広域視点から考えます。

群馬県（上野）は、栃木県（下野）とともに江戸を防御する外郭であり、藩領や石高は小さいものの譜代大名や親藩、天領がモザイク状に配置されました。その結果、人口稠密で個性豊かな中小都市が近接分布する形になりました。また、県庁と群馬大学を有する前橋は「政治行政文化都市」、新幹線駅と高崎経済大学を有する高崎は「交通経済都市」という性格を異にする都市となり、互いに対抗意識を燃やし、県庁争奪をはじめとして相克と協調を繰り返しました。

住民の行動パターンとして、高崎と前橋を核とする群馬県を二分する動きが見られます。すなわち、通勤通学は同格の相互交流関係にありながら買い物をはじめとする日常生活はそれぞれ自市で行われることが多く、商圈としては群馬県を扇形に二分しています。それが、現代では、交流と一体化が進み、高崎と前橋、その周辺で県央都市群を形成しつつあります。

おわりに、高崎と前橋の双子都市を核とし、「相克と協調」から「連携・交流・共生」へという新たな展開方向が示されて締めくくられました。

戸所先生のお話のうち、過去の経緯等については、現在高崎市に住んだり通ったりしていても知らないことが多く、現状についても得心が行くことも多々あり、今後の展望までしっかりと理解できました。市民の皆様もちろんですが、むしろ若い学生にごそ聞かせたい内容でもありました。

高松 正毅（経済学部教授）



＜第11回地元学講座 戸所 隆先生＞

事業報告③ 第12回地元学講座報告

開催日：令和4年3月15日

テーマ：「多胡碑の謎を解く—呪物としての石碑—」

講師：佐藤 喜久一郎 氏（育英短期大学講師）

多胡碑は、711（和銅4）年3月9日の朝廷弁官局からの多胡郡を設置する命令を記述したもので、このことは『続日本紀』の記述とも一致します。建碑は8世紀後半とされ、書道史の面からも日本三古碑の一つとしてたいへん貴重なものです。

ところが、その存在は知られながらも、それが何であるかは長らく分からぬまま、文献資料に頻りに現れるようになるのは、18世紀半ばになってからです。

碑文中に「羊」の字があり、それは人名とするのが最有力の解釈ですが、墓ではないのに「羊太夫の墓」とされ、呪物性を獲得し、さまざまな俗信や伝説、伝承を生み、寺社が造営され信仰の対象として守られてきました。

上野三碑は、日本に18例しかない古代石碑のうち3例が高崎市内に集まっているもので、特別史跡

であることはもちろん、ユネスコ「世界の記憶（世界記憶遺産）」にも登録されています。そのため、その解説は、歴史的な価値を論じるものがほとんどです。

今回の佐藤先生は、さまざまな資料を駆使し、民俗学的・人類学的な視点から白倉氏や小幡氏の存在を柱に多胡碑の扱われ方の変遷をたどっていきます。碑周辺に住む人々が多胡碑をどのように守ってきたかという受容史であり、他では聞くことのできない新鮮なものでした。

特に、多胡碑の下部に秘密の文字が隠されているという伝承があるものの今やコンクリートで固められてしまい、もはや見て確認することはできないこと、拓本を売っては収入源としていましたが、文政年間（19世紀初頭）に、その利権は争奪の対象ともなったことなど興味を惹かれるものばかりでした。

佐藤先生のお話は、検討を加える観点が多様多彩で、かつ内容も盛りだくさん、数回に分けることも可能かと感じました。

高松 正毅（経済学部教授）



<第12回地元学講座 佐藤 喜久一郎 先生>

事業報告④ 第11回地域めぐり報告

開催日：令和4年3月18日（金）

テーマ：「高崎だるまの街 豊岡をめぐる」

担当：地域科学研究所所長 高松 正毅

数日前からが続いていた春めいた天候とはうらはらに、当日は降ったりやんだりのあいにくの春時

雨。13時半にベルクフォルテ高崎店に集合し、点呼を取って出発しました。

最初は、群馬ダルマ製造卸販売にて型づくりの工程を見学です。鶏卵の業務用保護材とティッシュペーパーの箱などの古紙を一定の割合で混ぜたものを水で溶かし、型に入れて原型を作ります（真空製法）。

この製法は、1970年代半ば（昭和40年頃）に豊岡で確立したもので、だるまの大量生産を可能とし、その後だるまが全国に広まるきっかけをつくりました。それまでは、溶かした和紙を木型に張り付け、乾いたら割って型からはずし、再び接合するという工程でした。

次に、萩原招き猫製造にて、工房を見学。絵付けの実際やさまざまな色や形状、書き入れる文字などについて学びました。張り子の招き猫は（こちらも今日では真空製法ですが）、全国でも数少ないものです。活発な質問が出されました。

さらに、中喜屋にて、だるま展示館「木小屋」を見学、長年をかけて収集された全国のだるまを前に五代目峯岸貴美次氏から説明を受けました。そして、いよいよ我々も絵付けを体験しました。全く思うようにならないながら、和気あいあいと髭と文字を書き入れました。

その後、雨脚が次第に強くなるなか、若宮八幡宮の前を通過して常安寺へ。豊岡だるまの始祖とされる山縣友五郎（1793-1862）の墓に参り、群馬県達磨製造協同組合事務所にて、理事長である吉田昌弘氏よりお話を伺いました。

最後に、今井だるま店 NAYA へ。ここでも工房を見せていただき、2階のスペースで英語字幕付きでYouTubeにも公開されている動画にてだるま作りの工程を再確認。伝統的なだるまばかりでなく、現代的なデザイナーズだるまやコロナ禍で作られたアマビエだるまなどを見学。ここでも活発に質問して終了となりました。

参加してくださった方々は非常に熱心でどこでも質問が多く、結局、予定より1時間ほど押ししてしま

いました。

高松 正毅 (経済学部教授)



<第11回地域めぐり 中喜屋 絵付け体験>

研究プロジェクト進捗状況報告

中心市街地プロジェクト

阿部 圭司 (経済学部教授)

リノベーションによるまちづくりの先進事例調査
～「北九州家守舎」

1.はじめに

2021年12月22日から24日にかけて、地域科学研究所中心市街地プロジェクトの一環で、福岡県北九州市を訪問した。同市は昭和38(1963)年に10～30万人規模の5市合併により誕生した政令市であり、九州の玄関口、九州各地への交通の結節点としての立地特性を有している。また、背後にある筑豊炭田からの石炭積み出し、官営八幡製鉄所の設置など、明治以来工業地帯としての特徴も有している。高度成長期以降、産業構造の変化と共に人口の減少が始まり、1979年の106.8万人をピークに2022年1月時点の推計人口は92.9万人となっている。

人口減少に伴い、小倉都心部などの中心市街地に

おいては空室率の上昇、路線価の下落が進み、まちなかの賑わいが減少するという、地方都市に共通の課題に直面していた。そこで北九州市では中心市街地の活性化に向けた取り組みの中でリノベーションによるまちづくりを民間主導で推進する試み(小倉家守構想)を2010年にスタートさせた。その受け皿として(株)北九州家守舎が2012年に設立され、まちづくりの推進役となり、小倉北区魚町を中心とした遊休不動産の利活用が進められている。

今回、我々は12月24日に小倉北区魚町にある北九州家守舎を訪問し、同社の経営に参画している片岡寛之氏(北九州市立大准教授)から小倉地区におけるリノベーションまちづくりの取り組みや考え方について聞き取り調査を行った。本稿ではその概要を報告したい。

2. まちづくりの骨格

リノベーションによるまちづくりの先進事例として、北九州家守舎を運営した経験から、まちづくりの骨格として①都市政策、②推進エンジン、③リーディングプロジェクト、そして④事業化主体という4つの柱を指摘できるという。以下ではこの4つの柱について概要を示す。

始めに、「都市政策」は前述した「小倉家守構想」である。2010年に北九州市では民間によるまちづくりを東京(神田)¹で実践し、成果を生んでいた清水義次氏を迎え、リノベーションまちづくり推進事業を進めることとなった。これに沿って検討されたのが「小倉家守構想」であり、同年10月、11月に開催された小倉家守講座を通じて2011年3月に構想が策定された。家守構想とは、江戸のまちに見られた「家守」の職能を現代に再現し、これを活用する試みである。江戸の町では木戸の管理や番屋の運営などタウンマネジメントの一部は地主、実際には不在地主の代理人である「家守」の役割であった。

¹ 千代田区や日本政策投資銀行などが中心となり取り組んだ「千代田 SOHO まちづくり構想」の中で民間主導の家守事

業のモデルとなった「REN-BASE UK01 プロジェクト」を指す。

管理運営の原資は店子からの地代等であり、町の価値を向上させ、収益を上げることが良いまちづくりに繋がっていた、というのが江戸の町のあり方であった。家守構想はこの現代版の家守を作ること、行政主体ではなく、民間が担い手となるまちづくりを目指すものである。構想の推進役は行政（北九州市）であるが、実際のプロジェクトでは民間が主体となり、補助金に頼らず民間の資金だけで行うことが特徴である。行政は各種行政手続き窓口の一本化、広報を通じた不動産オーナーへの啓発などのサポート役となる。小倉家守構想では小倉都心部の遊休不動産をリノベーションし、都市内に立地することが適した産業（都市型産業）を集積することで雇用を創出、さらにはコミュニティの再生を目指している。構想づくりを通じて集まってきた人たちの中からプロジェクト推進の主体として北九州家守舎が創設された。

2つめの「推進エンジン」はこの現代版家守を育成するリノベーションスクールの開催である。スクールでは1チーム7、8人のグループに分け、実際の遊休不動産を対象に、4日間のグループワークによりリノベーションの事業計画を検討、最終日に不動産のオーナーに提案、事業化するところまでを目指す、という内容である。各チームには全国各地で建築、不動産、デザイン、フードなどの第一線で活動している講師がユニットマスターとして付き、ファシリテーターとしての役割を果たしている。リノベーション事業の収支については、事業期間と年間の収支を設定し、これに基づき概ね5年以内で初期投資を回収できるような投資計画を立てることを基本としている。小倉では2011年8月に第1回が開催され、以降、年2回ほどのペースで2017年までに12回開催されている¹。リノベーションスクー

ルはこの北九州での成果が出始めると、静岡県熱海市、和歌山県田辺市、和歌山市などにも広がり、さらに全国に拡大し、2021年3月末の時点では北九州を含めて全国65都市・エリアで計140回開催されている²。

3つめの「リーディングプロジェクト」は家守構想のイメージを共有し、実現可能性を可視化するためのプロジェクトである。その対象として、小倉の中心市街地にある魚町銀天街に位置する中屋ビルの一角が選ばれた。メルカート三番街と名付けられた



<写真1 メルカート3番街、外観>³

区画は魚町銀天街と小倉駅前から延びる平和通りの2つの路線価の高いエリアに挟まれた魚町サンロード商店街に面している。魚町銀天街と比較すると人通りが少なく、テナントも入らず長年放置されていたとい

¹ 第1回と第2回はテストケースとして国土交通省の補助事業として(一社)HEAD研究会が主催し、第3回から第6回は北九州市の予算により北九州リノベーションまちづくり推進協議会が主催、さらに第7回から第12回は国土交通省の啓発事業として(株)アフタヌーンソサエティ、(株)北九

州家守舎、(一社)公民連携事業機構の共同主催で開催されている。

² (株)リノベリングホームページ資料より。

³ 以下、写真はすべて筆者によるものである。

う。ここをリノベーションし、カフェ、アートフラワー、雑貨、洋服、古着、ネイルサロンなど10店舗が入居した。従来このエリアにはいなかった業種で30代前後の若い世代がオーナーとなっている。全体でも30店舗程度の小さな商店街に10店舗の新規事業者がオープンすることで、大きなインパクトを与えることに成功した。片岡氏によれば、ポイントはスピードだという。リノベーションスクールの第1回は前述の通り2011年8月であるが、メルカート三番街はそれに先立つ2011年6月のオープンである。スクールが開始する前に具体的な形を見せることで、家守構想のイメージ、可能性を可視化すると同時に、スクール参加者、不動産オーナーに「自分たちにもできるのでは」という自信を持たせる効果も得られている。このスピード感に貢献しているのは5年程度の回収期間に見合う額の投資に限定する、という低リスク投資と自主運営組織によるコミュニティ形成を促している点にあるという。

最後の4つめの柱は「事業化主体」である。北九州家守舎の役割は事業企画の立案、物件のリフォーム・転貸・投資である。保有する不動産の有効活用に悩む不動産オーナー（民間・行政）と中心市街地で挑戦したいものの、リフォームを含めた物件の扱いについて知識の少ないビジネスオーナーをマッチングする役割を果たしている。家守舎の特徴としては、専門分野の異なる本業を持つ3~4人のパートナーで構成されている点にある。北九州家守舎の場合、現在のパートナーは大家業、設計事務所、インキュベーションカフェ、大学教員から構成されている。それぞれが本業を持つことで、様々な人材にアクセスできる、副業として家守舎に関わることでリスクを減らしている、少人数で意思決定するためフットワークが軽い、などのメリットがある反面、実績がない、不動産を有していない、ビジネスモデルとしての前例が少ない、その結果として資金調達能力が低い、という問題点もあるという。そのため事業の中心は不動産の転貸とし、入居者が決まって

からの投資でリスクを低くする、前述のように5年程度の短い回収期間に見合う額の投資に限定するという方針で臨んでいるという。

3. 具体的事例

家守構想に基づくリノベーションによるまちづくりの具体的事例について、北九州家守舎が関わった案件を簡単に紹介する。

3.1. ポポラート三番街

先述のメルカート三番街と同じ中屋ビルの2階フロアをリノベーションし、2012年4月にオープンしたエリアである。150坪ほどのスペースがあり、以前は婦人服店が入居していたという。魚町銀天街に面しているとはいえ、2階ということもあり、借り手が付かなかった。当時の賃貸料は1階部分が月に坪1万程度。2階は安くなるとしても月100万円前後の負担となり、改装等、新規開店にかかるコストまで考慮するとこれを負担できるテナントを見つけるのは困難、という状況であった。そこで、フロアに小さい間仕切りを置き、17（現在は20）の区画を作成し、手づくり作家のアトリエ兼店舗が入る、というリノベーションが提案された。1区画は面積にもよるが、1万円台から5万円台に抑えられ、数人でシェアすることも可能となっている。複数名で借りた場合、月1万円以下の負担で小倉の中心市街地に拠点を置くことが可能となる点がセールスポイントになっている。テナントにはフリーマーケット等に出店している人達に話を持ちかけ、そこからさらに口コミ等で広がり、17区画70名の作家で埋めることができたという。潜在的なニーズを有する層にアプローチできたことと、フロアを小分けにすることでテナント側には低いエントリーコストを提供でき、オーナー側にはリスク分散できたことが、本案件の成功の要因といえるだろう。

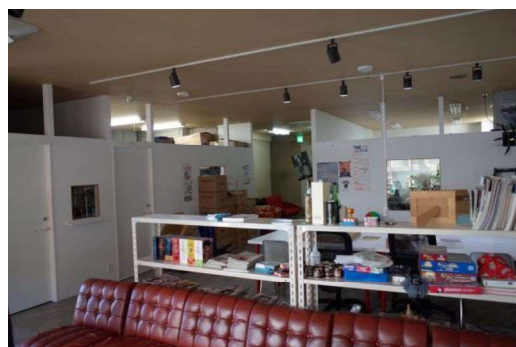


<写真2 ポポラート三番街の各区画, 小さな区画に手作り作品のアトリ兼店舗が入居している>

3.2. MIKAGE1881

魚町銀天街近くのみかげ通りと勝山通りが交わる魚町交差点近くにある雑居ビルの5階(約50坪)に、2012年10月にオープンした北九州初のクリエイター向けコワーキングスペースである。以前は飲食店が入居していたが、こちらも長年テナントが入らない、という状況が続いていた。このスペースは第2回のリノベーションスクールでの対象案件が事業化されたものである。メルカート三番街やポポラート三番街と同じく、壁紙や床を剥がし新しく間仕切りを入れるなど最小限の改装費に抑え、リスクの低減化に努め、7つの区画の他、会議室、シェアスペース、コミュニケーションスペースが配置されたフロアに生まれ変わった。月額での部屋貸しの他、月額の机貸し、時間制の机貸しという3タイプのワークスペースの提供を行っており、現在、Webデザイン、ITエンジニア、情報誌、映像企画制作・グラフィックデザイン、アプリ制作、環境コンサルタントなどが入居している。この案件は不動産オーナーから北九州家守舎が借り受けて、リノベーションの投資を行い、テナントに貸し出す、という

形を採っている。



<写真3 MIKAGE1881, シェアスペース>

3.3. TangaTable (タンガテーブル)

小倉駅から徒歩10分程度、魚町商店街からも数分の処にある旦過市場¹、市場の横を流れる神嶽川を挟んで立地している6階建てビルの4階にあるのがタンガテーブルである。10年ほど空き状態で、以前は学習塾が入居していた176坪ほどのスペースである。こちらは第6回のリノベーションスクールでの対象物件が事業化されたもので、2015年9月にオープンしている。旦過市場の「食」と結び付けたホテル&ダイニングがコンセプトとなっており、約30席のダイニングの他、男女混合、女性専用のドミトリー(ベッド数合計67)、グループ向けの4名用個室、和室が計5室用意されている。バスルームとトイレは共用だが、男女別となっており、また宿泊者専用のキッチンとラウンジが用意されている。前述の案件が数百万の規模であったものとは異なり、事業規模は6,000万円程度となった。そのため特別目的会社(SPC)として事業を運営する(株)タンガテーブルを設立、北九州家守舎を始め関係者が出資、ここにMINTO機構(民間都市開発推進機構)²からも1,500万円の匿名組合出資を受け、資本が安定し、金融機関からの融資と合わせて

¹ 旦過市場は「北九州の台所」とも呼ばれ、昭和30年代の雰囲気を残した全長180メートル余りのアーケード街に鮮魚、青果、精肉の他、郷土料理などの総菜を扱う店が多く集まっている。1999年の火災、2009年、2010年の豪雨被害を受けて河川改修と共に神嶽川にせり出す市場の形状を

改め、建て替えにより再開発する計画が進んでいる。詳細は北九州市ホームページを参照。

² 1987年に設立された国土交通省所管の財団法人。「民間都市開発の推進に関する特別措置法」及び「都市再生特別措置法」に基づき、民間事業者等が行う都市開発事業に対

必要な資金を調達することができた。



<写真4 タンガテーブル, 各室への入り口。暗証番号式のドアでセキュリティ面の心配もない>



<写真5 タンガテーブル, ホテルの一室(和室) パズルのようなデザインのボロノイ畳がモダンに映る>

4.おわりに

聞き取り調査の後、前述した物件や旧小倉ホテル跡地を活用した船場広場¹を案内していただき、先の説明との答え合わせを行った。当日はコロナ感染に伴うまん延防止等重点措置も解除されていたク

リスマスイブということもあり、人通りがかなり戻ってきた印象を持った。高崎と同様、小倉も中心市街地にマンションが立地するようになり、人口も少しずつ回帰しているが、生活様式の変化もあり、往時の街の賑わいを取り戻すことは難しいだろう。歴史文化、自然などの地域資源を生かしながら、現在の産業構造や生活様式の変化に合わせたタウンマネジメントが求められると思われる。

また、まちおこし活動を継続するには、スタートアップこそ特定の人物に属人化した活動であっても、やがて多くの人を巻き込み、標準化が進むことがポイントの1つであろう。今回訪問して何うことができた都市政策、推進エンジン(リノベーションスクール)、リーディングプロジェクト、そして事業化主体(北九州家守舎)という4つの柱は、まちおこし活動が標準化へと進む際の必要条件と捉えることができる。小倉での活動が先進事例として注目を集め、全国各地での中心市街地活性化の活動に取り入れられていることは、これを証明している、といえるだろう。

小倉での3日間では、北九州家守舎以外にも、北九州市役所と北九州商工会議所へ訪問し、家守舎との連携やそれ以外の中心市街地活性化に関する活動についてお話を伺う機会を得た。改めてこの場を借りて感謝する次第である。

し資金支援等を行う。

¹ 2019年に小倉都心に位置していた旧小倉ホテルを所有する住友不動産(株)と北九州市が跡地の活用について提携

し、小倉都心部のにぎわい創出や地域の活性化を目的に運営する広場。北九州家守舎が運営管理事務局として委託されている。

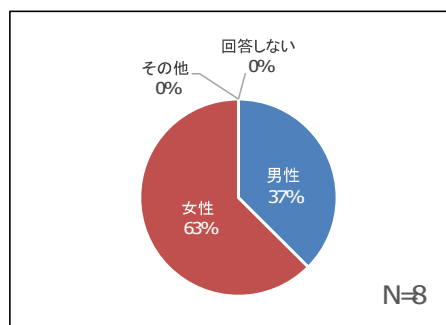
2021年度・地域経営セミナー受講者アンケート

(受講者 8人)

[有効回答数：8人 (回収率：100.00%)]

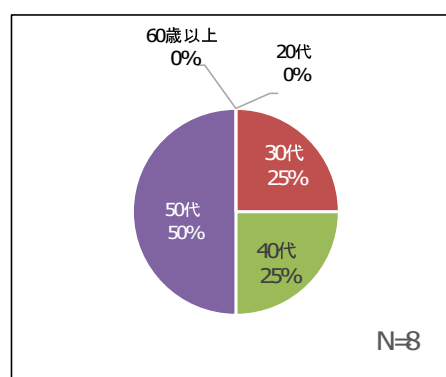
回答者の性別

【単位：人】	
男性	3
女性	5
その他	0
回答しない	0
合計	8



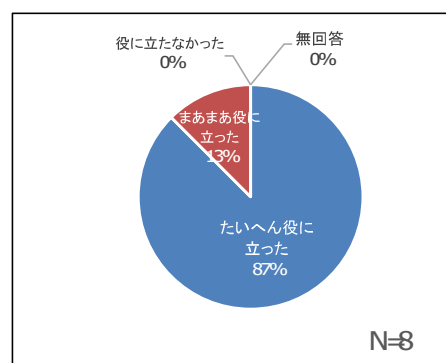
回答者の年齢

【単位：人】	
20代	0
30代	2
40代	2
50代	4
60歳以上	0
合計	8



質問1. 本日の講演は日頃の業務に役立ちましたか

【単位：人】	
たいへん役に立った	7
まあまあ役に立った	1
役に立たなかった	0
無回答	0
合計	8



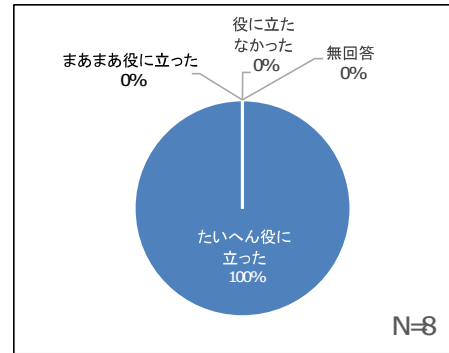
- ※ 今回ひきとり手のないお骨がこれほどあるとは知らず驚きました。生保の方が市で火葬していることは知っていましたが・・・。親族がいても関わってはいただけない方も増えており、緊急時、死後、本人の意向が反映できるよう情報を収集し、高齢の方などにわかり易い場所に保管してもらえようとりあえずは促して行きたいと思います。
- ※ 今後増える案件である為
- ※ 名前が入った遺骨が増えているということにあらためて考えさせられました。空き家の問題にしても直面する課題に目的意識を持って取り組みたいです。
- ※ 業務の中で、身寄りがない、あっても縁を切っている（切られている）方が増えているので、どうしたらいいのか悩みがありました。
- ※ 終活情報登録伝達事業は、安価で取組める事業と。
- ※ とてもわかりやすく、今後の業務の参考になります。難しく考えないで、できることをやってみたいと思います。
- ※ 斎場の担当をしていますが業務に役立つ教えが多くありました。
- ※ 業務に直結ではないが戸籍や相談等に関連する内容だと思いました。今後、福祉部門に配属になった際の参考にしたいと思いました。

質問2. 本日のセミナーの討論について

【単位：人】

たいへん役に立った	8
まあまあ役に立った	0
役に立たなかった	0
無回答	0
合計	8

- ※ 各地域の取り組みは参考になりましたが、やや音声の聞き取りが難しく、討論の結果報告が聞こえないのが残念でした。
- ※ 他市の意見を聞くことができた
- ※ 外の自治体の方と意見交換でき、学びを深めることができました。
- ※ 他自治体の方も参加されており、意見交換などもできてよかった。
- ※ 福祉の内容はこれまで学んだことはありませんでしたが、自身の家族についてとても参考になりました。

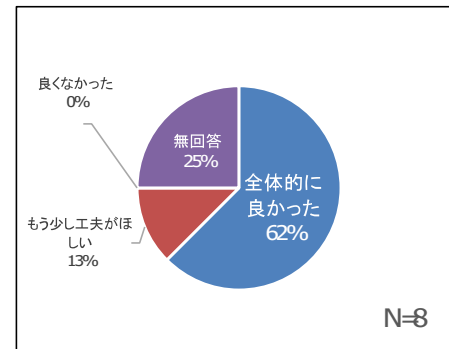


質問3. 本日のセミナー全体の評価について

【単位：人】

全体的に良かった	5
もう少し工夫がほしい	1
良くなかった	0
無回答	2
合計	8

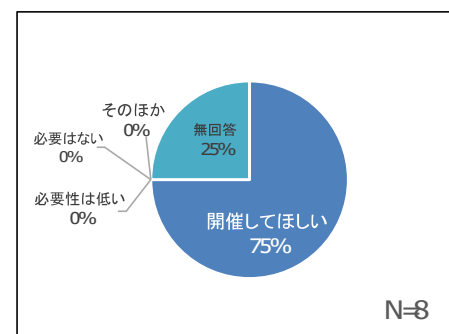
- ※ 今回のセミナーの内容を紹介するところがあって、広く職員に知らせていただきたいと思います。



質問4. (自治体職員対象のセミナー) 今後も開催した方がよろしいでしょうか

【単位：人】

開催してほしい	6
必要性は低い	0
必要はない	0
そのほか	0
無回答	2
合計	8



質問5. 今後、このセミナーで取り上げてもらいたいテーマや講師名など

- ※ ・地域づくりに関連するセミナー
- ・看取りについて

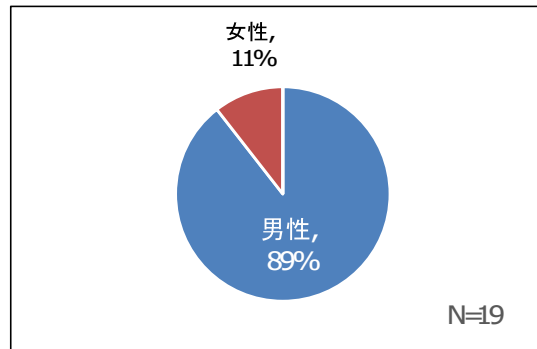
第11回地元学講座（高崎の市街地拡大）アンケート調査結果報告

2022/3/5の講座終了時にアンケート調査を実施した。
 [有効回答数：19人（回収率：95.00%）]

参加人数 20名

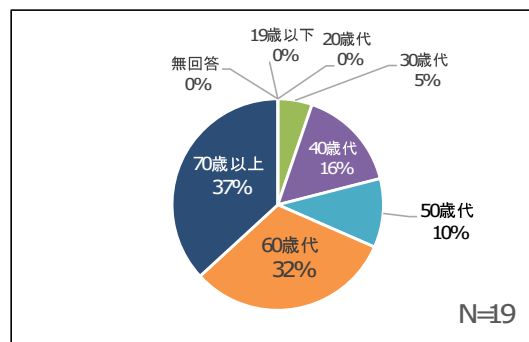
問1. 性別

【単位：人】	
男性	17
女性	2
その他	0
答えたくない	0
合計	19



問2. 年齢

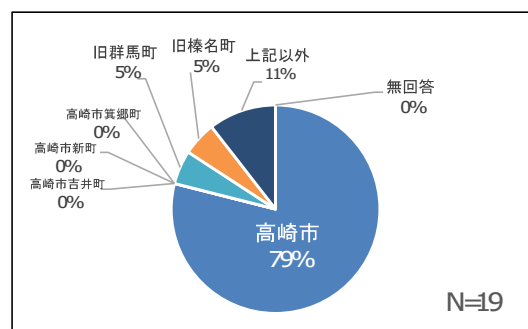
【単位：人】	
19歳以下	0
20歳代	0
30歳代	1
40歳代	3
50歳代	2
60歳代	6
70歳以上	7
無回答	0
合計	19



問3. お住まいの地域

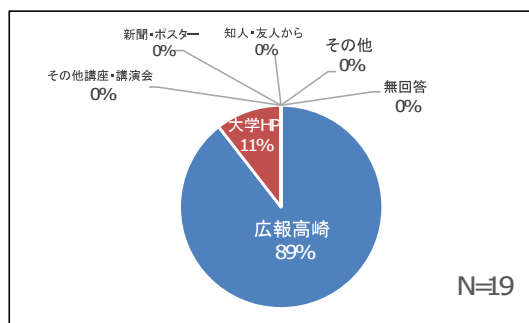
【単位：人】	
高崎市	15
高崎市吉井町	0
高崎市新町	0
高崎市箕郷町	0
旧群馬町	1
旧榛名町	1
上記以外	2
無回答	0
合計	19

※上記以外・・・宮城県石巻市



問4. 本講座を知ったきっかけ

【単位：人】	
広報高崎	17
大学HP	2
その他講座・講演会	0
新聞・ポスター	0
知人・友人から	0
その他	0
無回答	0
合計	19



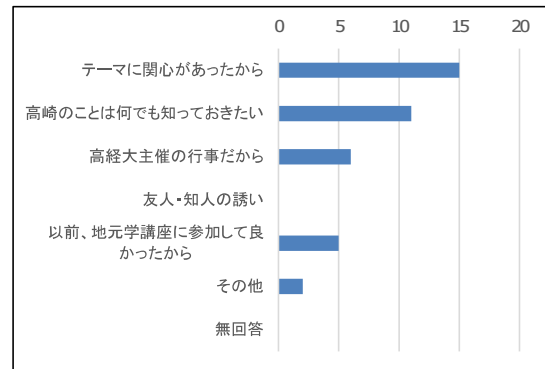
問5. 受講の動機（複数回答可）

【単位:人】

テーマに関心があったから	15
高崎のことは何でも知っておきたい	11
高経大主催の行事だから	6
友人・知人の誘い	0
以前、地元学講座に参加して良かったから	5
その他	2
無回答	0

※その他

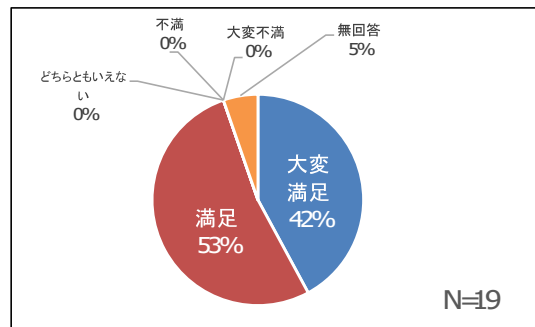
- ・戸所先生のゼミ生だから
- ・戸所先生のゼミ生だから話・講義を受講したかったから



問6. 満足度

【単位:人】

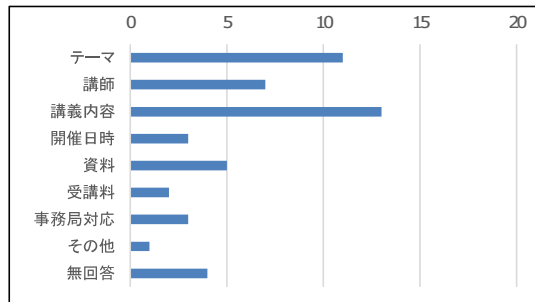
大変満足	8
満足	10
どちらともいえない	0
不満	0
大変不満	0
無回答	1
合計	19



問7. 問6で「大変満足」「満足」とお答えいただいた方の評価する点（複数回答可）

【単位:人】

テーマ	11
講師	7
講義内容	13
開催日時	3
資料	5
受講料	2
事務局対応	3
その他	1
無回答	4



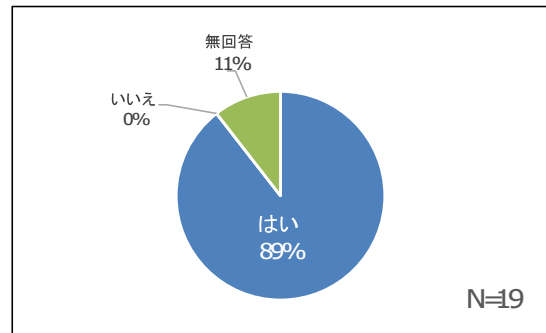
- ※ 特に良かった点は、テーマです。開催日時が土曜日だったことも良かったです。高崎と前橋のそれぞれの歴史的背景のお話がとても面白かったです。貴重なお話をありがとうございました。
- ※ 満足ですが、指本、指標とその類似性の数字が2015年と古すぎる。特に医師数の数所が2012年と古すぎる。
- ※ とても内容の濃い講義でした。100分程度でしたが、あっという間に感じました。
- ※ 地図を使っての講義は非常に興味深い内容でした。ゴルフ場の跡地が空中写真で見ると太陽光発電に使われているということを初めて知りました。勉強になりました。
前橋が米国から空襲を受けたのは飛行場があったと言う事も知りませんでした。
- ※ 地元密着
- ※ 事前に（遠方のため）対面開催であることを私に確認された点
- ※ 群馬の産業の歴史が大変良くわかりました。地方都市の未来を考える上で知っていないといけない知識だと思いました。高崎市民性を知りたかった。

問8. 問6で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と
お答えいただいた方の理由
特になし

問9 地元学にまた参加したいか

【単位:人】

はい	17
いいえ	0
無回答	2
合計	19



問10 取り上げてほしい高崎市の歴史・民俗、現状の問題・課題等、
また事務局への要望、お気づきの点など

- ※ 神社、仏閣、古墳等、現地に行つての説明会
- ※ 高崎市の歴史。特に江戸時代のことなどをテーマにした講義を期待しています。
- ※ 高崎経済大学の歴史（映画「庄殺の森」も入れてください。
北関東3県
- ※ 都市とは何か、地政（学）とは何か、の論理的説明が前段にあったら良かった。
- ※ 市史（歴史）
- ※ 江戸時代～明治時代の高崎
前橋市が手をあげているスーパーシティ構想に、高崎も双子都市として手をあげて一緒にスーパーシティになって欲しい。

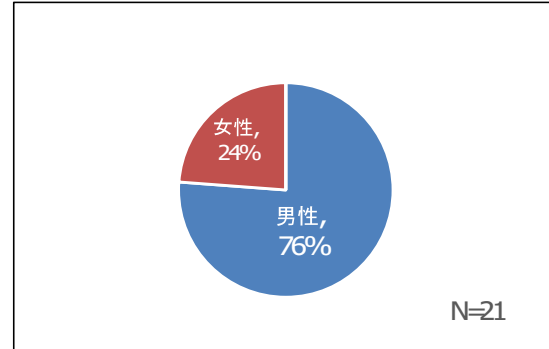
第12回地元学講座（多胡碑の謎を解く）アンケート調査結果報告

2022/3/15の講座終了時にアンケート調査を実施した。
 [有効回答数：21人（回収率：77.78%）]

参加人数 27名
 （対面20名、オンライン7名）

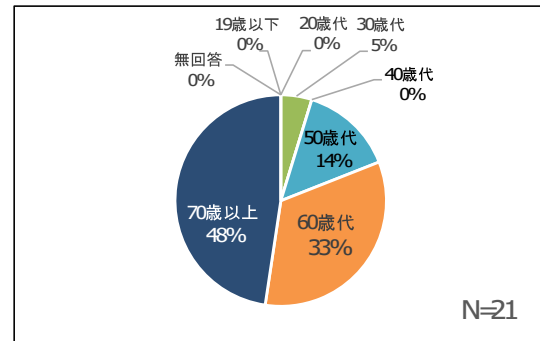
問1. 性別

【単位：人】	
男性	16
女性	5
その他	0
答えたくない	0
合計	21



問2. 年齢

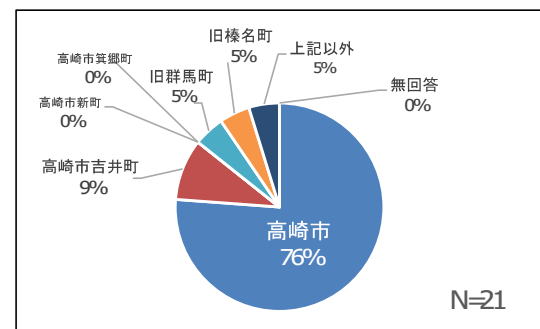
【単位：人】	
19歳以下	0
20歳代	0
30歳代	1
40歳代	0
50歳代	3
60歳代	7
70歳以上	10
無回答	0
合計	21



問3. お住まいの地域

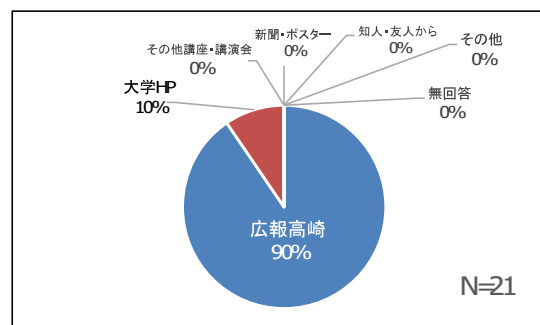
【単位：人】	
高崎市	16
高崎市吉井町	2
高崎市新町	0
高崎市箕郷町	0
旧群馬町	1
旧榛名町	1
上記以外	1
無回答	0
合計	21

※上記以外・・・藤岡市



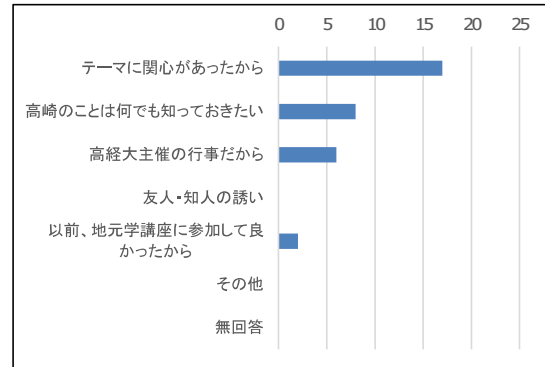
問4. 本講座を知ったきっかけ

【単位：人】	
広報高崎	19
大学HP	2
その他講座・講演会	0
新聞・ポスター	0
知人・友人から	0
その他	0
無回答	0
合計	21



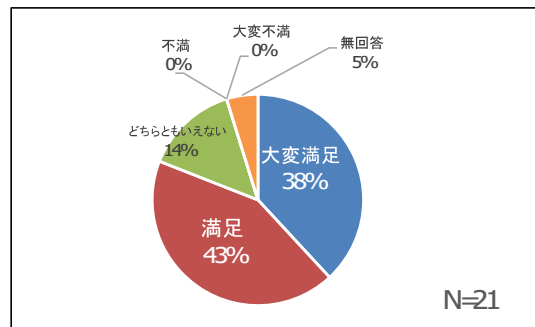
問5. 受講の動機（複数回答可）

【単位:人】	
テーマに関心があったから	17
高崎のことは何でも知っておきたい	8
高経大主催の行事だから	6
友人・知人の誘い	0
以前、地元学講座に参加して良かったから	2
その他	0
無回答	0



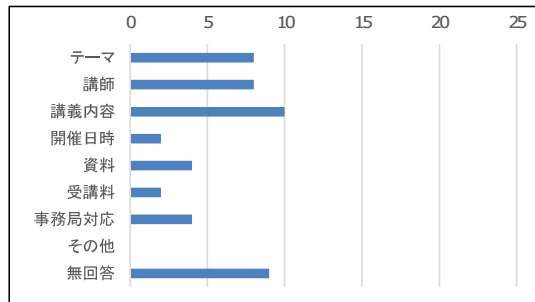
問6. 満足度

【単位:人】	
大変満足	8
満足	9
どちらともいえない	3
不満	0
大変不満	0
無回答	1
合計	21



問7. 問6で「大変満足」「満足」とお答えいただいた方の評価する点（複数回答可）

【単位:人】	
テーマ	8
講師	8
講義内容	10
開催日時	2
資料	4
受講料	2
事務局対応	4
その他	0
無回答	9



- ※ 多胡碑について民族学的という新鮮な切り口での講義について評価、面白かった。
- ※ 今迄学習していた「多胡碑」とは全然違う角度の話だったので随分奥深いものだに興味を持って聞きました。
- ※ 多胡碑について違った見方を教えてもらった。
- ※ 古文書の解説がわかりやすかった。
- ※ ポインターの調子が悪かったようです。
- ※ 多胡碑の知らなかった面について講義していただき大変参考になりました。
- ※ 史料の裏付けで進めてよく理解できた。
- ※ 説明が丁寧でわかりやすかった。
- ※ 応募してからすぐ郵送で案内が来たので予定がたてられた。コロナの心配があったがリモートで受講出来たこと。スムーズで話がとても分かりやすかった。Zoom参加者にも資料の配布があり助かった。

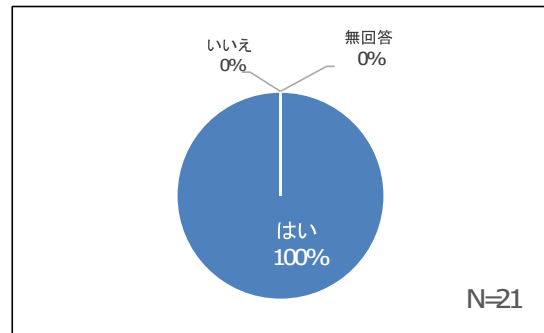
問8. 問6で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と
お答えいただいた方の理由

- ※ 演題についてまでの伝承の話が長すぎて、多胡碑についての話が少なく少し残念であった。
- ※ 多胡碑の保存管理の経緯も重要なテーマとは感じるがではなく、本来の価値、意味、についての説明を期待していた。

問9 地元学にまた参加したいか

【単位:人】

はい	21
いいえ	0
無回答	0
合計	21



問10 取り上げてほしい高崎市の歴史・民俗、現状の問題・課題等、
また事務局への要望、お気づきの点など

- ※ 戦国期～1500年前半の上野国について。
- ※ 現地へ行っての講座。
学生達と違って受講者は高齢者が多いので、1回休憩を取ってトイレタイムが欲しかった。
- ※ 箕輪城、長野業政の活躍、戦国時代の上州、といったもの。
- ※ 今回のテーマの中にもでてきた辛科神社の成立～歴史について、多胡碑との関連についてをストーリーで聞いてみたい。
- ※ 椅子にストッパーがあれば良いと思います（安全面で）
- ※ 豊岡藩について。

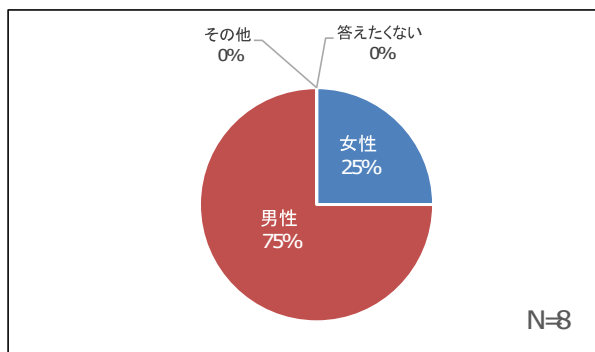
第11回地域めぐり（高崎だるまの街 豊岡をめぐる）アンケート調査結果報告

2022/03/18の講座終了時にアンケート調査を実施した。
 [有効回答数：8人（回収率：100.00%）]

参加人数 8名

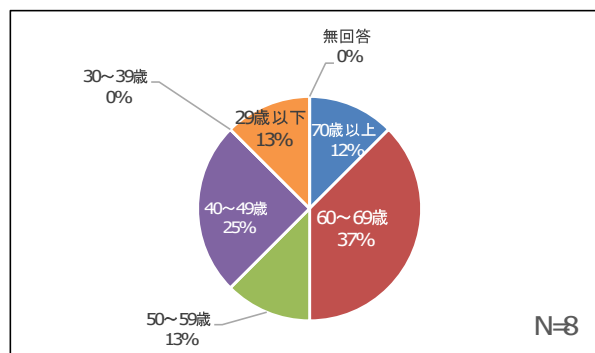
問1. 性別

【単位：人】	
女性	2
男性	6
その他	0
答えたくない	0
合計	8



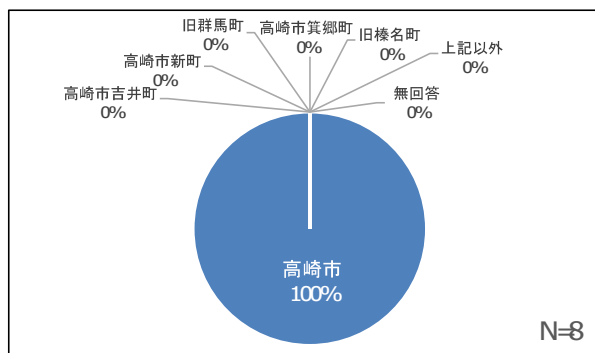
年齢

【単位：人】	
70歳以上	1
60～69歳	3
50～59歳	1
40～49歳	2
30～39歳	0
29歳以下	1
無回答	0
合計	8



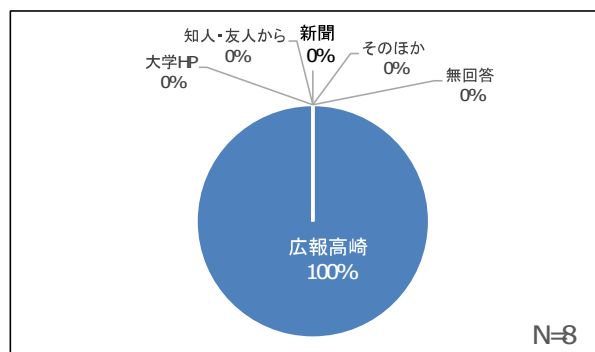
お住まい

【単位：人】	
高崎市	8
高崎市吉井町	0
高崎市新町	0
旧群馬町	0
高崎市箕郷町	0
旧榛名町	0
上記以外	0
無回答	0
合計	8



問2. 本企画を知ったきっかけ

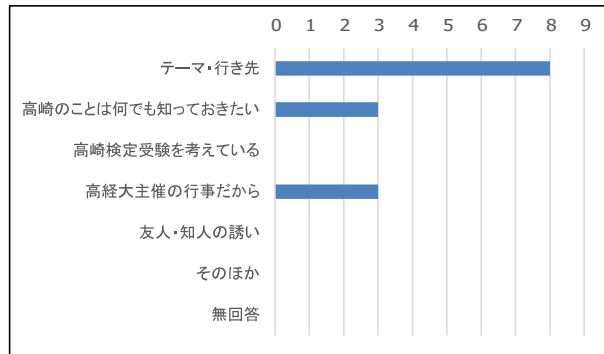
【単位：人】	
広報高崎	8
大学HP	0
知人・友人から	0
新聞	0
そのほか	0
無回答	0
合計	8



問3. 参加の動機（複数回答可）

【単位:人】

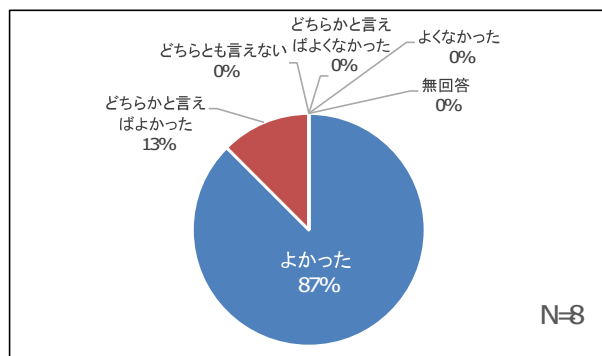
テーマ・行き先	8
高崎のことは何でも知っておきたい	3
高崎検定受験を考えている	0
高経大主催の行事だから	3
友人・知人の誘い	0
そのほか	0
無回答	0



問4. 参加された感想

【単位:人】

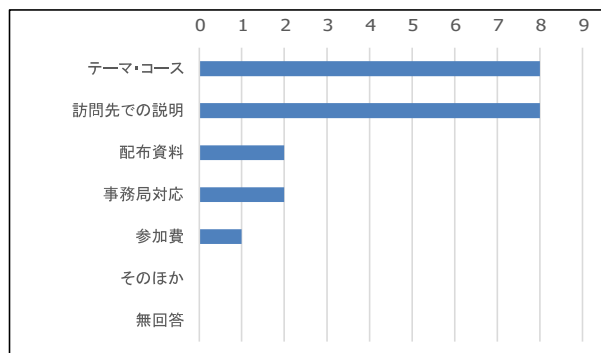
よかった	7
どちらかと言えばよかった	1
どちらとも言えない	0
どちらかと言えばよくなかった	0
よくなかった	0
無回答	0
合計	8



問5. 問4で「よかった」「どちらかと言えばよかった」と回答された方が評価する点（複数回答可）

【単位:人】

テーマ・コース	8
訪問先での説明	8
配布資料	2
事務局対応	2
参加費	1
そのほか	0
無回答	0



- ※ だるまの製造工程を初めて全て見られたこと
- ※ だるまの歴史等の説明
- ※ 考えていた以上にツアーの内容が盛り沢山であり、それぞれの場所で大変楽しい時間と勉強をさせていただき、ありがとうございました。

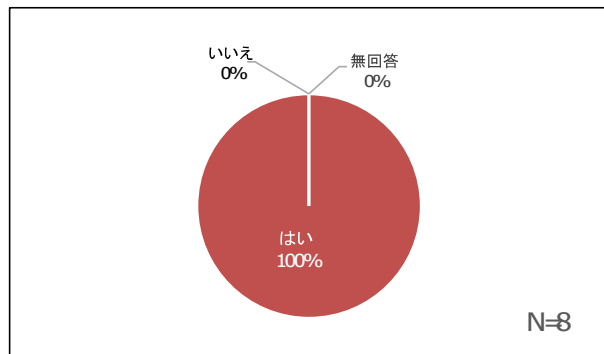
問6. 問4で「どちらかと言うとよくなかった」「よくなかった」とお答えいただいた方の理由

アンケート回答なし

問7. 地域めぐりにまた参加したいですか

【単位:人】

いいえ	0
はい	8
無回答	0
合計	8



どのようなテーマやコースの地域めぐりに参加したいですか。

- ※ 高経卒業生です。今度だけでなく今後も参加したいと思っています。
- ※ 梅
- ※ 特にこだわっていないので何でもいいです。お寺か神社みたいなのが良いです。
- ※ 高崎の歴史をたどるコース

地域科学研究所動静

- ・ブックレット第6号『高崎市製造業の動向』, 第7号『高崎からのグローバル人材育成-高大コラボゼミの12年』を発行しました。近日中に、本学ホームページで公開するとともに、市役所1階及び本学図書館にて、無償配布をする予定です。
- ・地域科学研究所紀要『産業研究』第57巻第2号を発行しました。今号では、論文2本、研究ノート1編、資料を1編掲載しました。後日、本学ホームページ(リポジトリ)よりご覧頂けます。

編集後記

令和3年度の1年間、地域科学研究所の事務を担当させていただきました。

新型コロナウイルス感染症に対応するため、今年度からオンラインでの事業実施が始まり、その対応をしたのが、特に印象に残っております。

必要機材の調達、Zoom ウェビナーのテスト、オンライン受講用のマニュアルの作成等、慣れていないことばかりでしたので苦労しましたが、いろいろと勉強になりました。

はじめてのオンラインでの実施でしたので、当初はもっと混乱があるかと思いましたが、対面での実施を併用していたためか、予想よりもトラブルは少なく実施できたかと思えます。

来年度の事業の実施形態につきましては、今後検討していくこととなりますが、対面での実施と併せてオンライン配信をできる限り検討し、受講機会を広げていけばと考えております。

(MI)

高崎経済大学地域科学研究所

ニュースレター No.17

発行 2022年3月31日

群馬県高崎市上並榎町 1300(〒370-0801)

TEL(027)344-6267 FAX(027)343-7103

E-mail : chiikikagaku@tcue.ac.jp

©TIRS